

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	餞別の辭
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 171: 1-1
Issue date	1919-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6491
Right	

饒 別 の 辭

卿等は今や、過去數年の間學を修め心身を練られたる龍南の郷を後にし、大なる抱負と高き理想とを以て前途に横はる光明の丘に進まうとして居られる。我等は何の辭を以て卿等を祝す可きかを知らぬ。唯卿等の悦びを喜び共に其の幸福を感謝する者である。

さり乍ら卿等の責任は益々重大である。靜に現下の世界を思ひ社會の状態を案じ我が帝國の立場を察する時、我等が前古未曾有の大時代に生れし幸福を自覺すると同時に、其の使命と責務の轉た大なるを痛感せず居られないではないか。げに世界は今日の轉機を現出せしめんが爲に長い間生みの苦しみを續けて來たのである。今こそは萬象が一新され改造さる可き秋である。真理の大道は古今を貫いて消滅する虞はない。朽つべきものをして速に朽ちしめよ。廢るべきものをして速に廢らしめよ。新生の芽生は其の廢墟の蔭より勃然として萌ね出づるであらう。

我等は卿等が現實を回避するとなく飽くまで凝視せらるゝことを希望すると共に其の不淨なる渦卷に安價な妥協の手を差し伸べ之に巻き込まれ、果ては若き年寄りと化し精神的死者となられざらんとを期待する。卿等よ、若人の清純なる感激の滴を、其の胸に高鳴りし血潮の響を、更に現世の汚濁を慨し理想の彼岸に懼れし龍南數歲の日を永しへに忘れ給ふな。而して折々は剛毅朴訥の大旆の下に勝利の歌を高誦する龍南の健兒を想ひ起し給へ。

終に、陰に陽に我が部を愛し育まれし卿等に對し深く感謝すると共に、將來の御健闘を祈つて已まぬ。